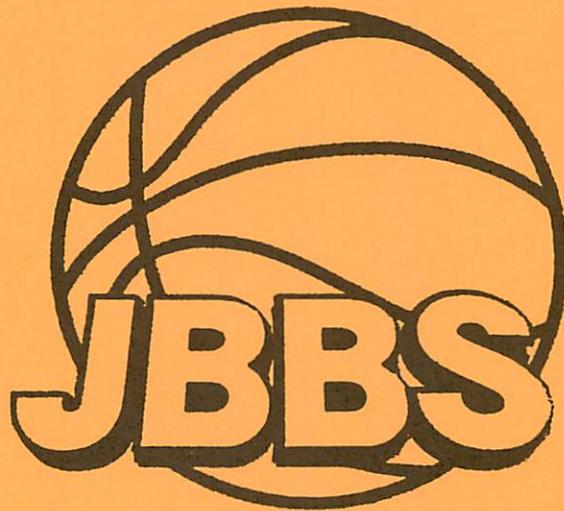


抜粋版

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:35



2007年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

REUSE を考える

[環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない”これが私たちの願いであるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

目 次

- 日本オリンピック史 3
ベルリンオリンピック大会
- 日本バスケットボールリーグ（JBL）開幕 6
- WJBL開幕 15
- bjリーグ開幕 20
- わが軌跡
わがバスケットボールの歴史 鹿子木基員 . . . 26
- 会員だより
新入会のご挨拶 馬上 達之 . . . 31
- 事務所移転完了 32
特別寄付にご賛同有難うございました
- 日本協会の混迷続く 34
- プラザ こぼればなし 35
- 訃報
鬼塚 喜八郎さん 編集部会 . . . 36
- 第3回全日本社会人バスケットボール選手権大会組合せ 38
- 事務局だより 39

日本代表チームオリンピック史

ベルリンオリンピック大会

[歴史部]

プラザ第34号(前号)でオリンピック選手一覧表を掲載したところ、多くの方々から反響をいただいた。

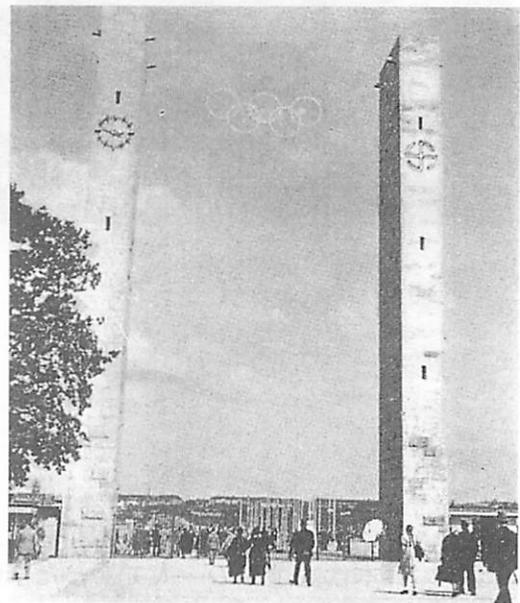
今回は昭和11年(1936)に開催されたベルリン大会に焦点を当てて、いくつかの資料を紹介してみたい。特に下記に掲げる伯林(ベルリン)大会報告書は、右から左へと文字がつづられており、2596という数字は紀元2596年(西暦1936年)を表している。

報告書表紙の写真では、ボールを奪い合う選手たちの後方に観客用のスタンドがあり、その向こうには木立が広がっている。

当時の日本代表選手の写真から、NIPPONと書かれたユニフォームを身に着けた選手たちの並々ならぬ決意の程が感じられる。

日本代表チームは、ベルリンまで船と列車で14日間もかかって到達したそうだが、シベリヤのある駅で列車の待ち時間にパス練習する風景もそのことを物語っている。

以下その頃を物語る珍しい写真などの一部をご紹介しますが、これらの原本は新宿区霞ヶ丘町の秩父宮記念スポーツ博物館・図書館に保存されており、どなたでも見ることができる。



口入場技競クツピンリオ

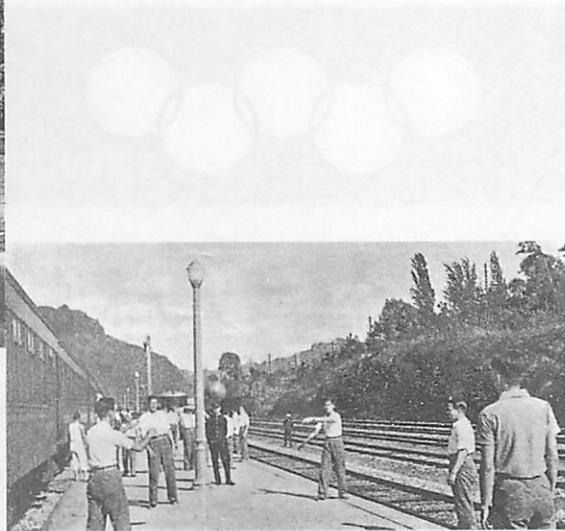
オリンピックコートに於ける代表團



後列右より 竹崎、三橋コーチ、吉井、宗像、廉、鹿子木、
中江、李、淺野(監)
前列右より 張、松井、横山、前田、田中(主)



(對ドイツ練習戰全景)



てに驛一のヤリベシ

当時の日本代表選手の一人であった李性求氏が“霧散！二位の夢 ベルリン・オリンピックの教訓”と題して後年に書いた論文が協会50年史に掲載されているので、協会の了解を得て以下に転載する。

霧散！二位の夢 ベルリン・オリンピックの教訓

過去のオリンピック、アジア大会等に数多いナショナルチームを送っているが、ベルリン・オリンピックへのナショナルチームほど実力のあった頼もしいチームはあまり多くなかった

と思う。

当時のメンバーは類のない強力なもので、抜群の強者として輝いていた東大主軸の田中秀次郎、鹿子木健日子、中江孝男等長身3名をはじめ、昭和11年度の全日本で覇権を予想された東大を破って優勝した延禮専門から、李性球、廉股鉉、帳刑鎮等のプレーヤー3人が加わり、更に脱日本タイプのプレーを駆使した京大の松井聡、名人と称された立教の前田昌保、早稲田の主演、横山堅七、宗像邸一に超高校級と言われた新潟師範の吉井橋三郎等が綺羅星の如く揃った出色なものであった。そのうえ身長においても、参加21カ国の選手にさほどひけをとらぬもので、強さと妙味を加えたチームであった。

ところで我等の相手となるべき各国の実力を分析してみると、ヨーロッパはその普及度に於いて低いし、南米も未だ日本の敵ではなかったと言える。従って、アメリカを除けば日本にとって脅威的な存在はなかった。それ故に、われ等日本チームはオリンピック第2位を夢みたとしても、無理もない。現地における一般の予想も日本とカナダを二位候補に挙げていた。

然し、試合は思いどおりにいかず、予期しない結果に終わってしまった。目標はずれの結果を考えてみると、まず大会競技規則に於いても、実力より組合せ運、試合運等によって左右されがちな不合理な点が見受けられる。我々はその不運に出会ったのも事実である。しかし、なんといたっても度を過ぎた自画自賛が最も大きな敗因であったというのが、いつわりない答えである。

その大会の競技規則は次のとおりであった。

1. 各チームのエントリーは14人、毎ゲーム出場メンバーは7人以内。
2. メンバー交替は負傷者が出たとか、やむ得ない場合に限り認める。
3. 交替したプレーヤーは二度と競技に参加出来ない。
4. 競技方法はトーナメント、但し第一回戦と第二回戦の敗者は敗者復活戦を行い、第三回戦からは復活戦はなしとする。
5. 毎ゴールの後のセンター・ジャンプ。
6. レフリーは一人制。

以上の各項から見て、実力による結果を期待するのはいろいろ問題点がある。殊に一、二回戦の敗者と三回戦のそれでは、試合運如何によって、その結果に及ぼす影響には雲泥の差がある。

日本チームのスケジュールは第一回戦は中国、第二回戦はポーランド、第三回戦はメキシコの順であった。

第一、第二回戦は順当に勝ち進んで、第三回戦のメキシコは初めから問題視しておらず、当然、事前の対策をおろそかにしたまま、試合に臨んだ。

それが凶と出た。この試合で日本のバスケットボール全体にも言える弱点を、すっかり現わしてしまった。というのは、今日でも日本のバスケットボールはゾーンに弱い傾向があるが、殊に1930年代の初期は全般的にゾーンに対しては、殆ど関心すら持たなかった時代で、ゾーン・オフenseは極めて不得意であったのに対し、メキシコはゾーン・ディフェンスをつかっていたため、ろくなプレイも出来ず拙戦の末、敗れる破目となったのである。復活戦も無い三回戦での敗退は痛かった。

かくの如くにして、オリンピック二位の夢は霧散。その悔しさは未だに私の脳裏から消えない。

そもそも二位を臨んだのが無理だったのかと言えば、そうでもない。第二回戦で日本に敗れたポーランドが敗者戦から浮かび上がって四位に入り、メキシコが三位を獲得したことから、それは実証される。勝運の神は我を見捨てたのだろうか・・・。

わが軌跡



わがバスケットボールの歴史

鹿子木 基員

関東大学バスケットボール連盟設立80周年記念パーティーで久しぶりに会った川本禮治郎さんから、「俺、振興会やってるんだけど、鹿子木さん入ってよ。横山もやってるんだ。」と言われたのがきっかけで会員になりました。

その川本さんの訃報を前号で知り、がっかりしましたのと同時に、「鹿子木さん、会報に何か書いてよ」と言われていた宿題を思い出しました。川本さんとは、大学も会社も普通の行動範囲も全く違いますが、少しばかり共有したのは1960年頃、北九州でのバスケットボールです。川本さんは当時全国でも五指に入る強豪八幡製鉄のスター選手、私はやっと県大会に出場できるようなレベルの三菱化成チームのリーダーでした。

1959年秋の国体に、八幡のOBが中心になって地域の選抜チームを作り、県予選を勝ち抜いて全国大会に出場したことがありました。監督は名伯楽の山本さん、ポイントガードは、名手、高木さん、慶応OBの水野さんもメンバーでした。私は、当時シュートがよく入ったので30点入れないと山本さんから、「どうした!」と叱られました。九州大会にも出場しましたので、三菱造船長崎の山口さん、東洋高压の八谷さん、など往年の名選手とも親しくしていただきました。

八幡製鉄の現役は、杉山さん、三橋さん、中川さん、金川さん、横山さんなど錚々たるメンバーで、時々私達OBチームの練習に胸を貸してくれました。そのような環境の中で川本さんは、練習を手伝ってくれるだけでなく、私たちの試合に駆けつけてなにかと面倒を見たり、遠征に付き合ったりしてくれましたので特に親しくなりました。川本さんのこのような付き合い方は、私だけでなく多くの人に対して共通していたようでした。

私が三菱化成に入って北九州(黒崎)に行きましたのは、1958年ですが、早速バスケットボール部に入りました。監督は、白木さん、コーチは東大出身の青島さんでした。プレイヤーは、小倉高校出身の福田君、その他は、養成所出身の方々でした。最初は、市民大会で勝ち進むのも容易でない状態でした。選手は、大部分養成所出身者で三交代勤務に入っていますし、コートはグラウンドの片隅にあるアウトドアだけ、練習に参加する人数は、1人、2人、・・・5人を超えれば御の字でした。それでも、工夫して練習をしました。

その後、飯塚商業から県優秀選手の信田君、東工大から小野寺君、東大から深谷君、出雲産業から伊藤君、早稲田から印南君、八女工業から城崎君、などが入り1964年新春の全日本総合大会には、八幡製鉄に次ぐ九州代表になりました。九州大会の決勝では、当然八幡製鉄に挑んだわけですが、印南君以下が素晴らしいプレイをして、前半38-38の同点まで頑張りました。私はベンチで指揮を執りましたが、与えた注意は「自分の出来る最も鋭いプレイをしろ」でした。日頃の練習で各人の特徴は把握していますから、この一言で、各プレイヤーは何をするのか分かってくれた様な気がしています。選手は、デフェンス、リバウンド、速攻、シュートとも、その通りにやってくれました。

全国大会での初戦は、早稲田記念会堂で行われ、金原選手など有名選手を擁し、遊津監督率いる松下電器でしたが、上述の伊藤選手のジャンプシュートがよく決まり、ここでも

前半同点の接戦を演じました。松下電器の遊津さんがハーフタイムにチームを引き締めておられた光景を思い出します。

伊藤選手は、普通のサラリーマンだった私が、バスケットボールを理由にリクルートしたただ1人の選手で、松江工業の渡辺先生に手紙を出してお願いし、推薦していただきました。渡辺先生とはお会いしてお願いするつもりでしたが、仕事が忙しくて果たせませんでしたので、上述の福田君にかわりに行って貰ったのです。伊藤君は短身ながら、今ならスリーポイントエリアから、高々と垂直に跳んでジャンプシュートが出来る人で、お正月の早稲田のコートでも見守る人々の注目を集めました。

東京にあった本社のバスケットボール部は、違った意味で、素晴らしいチームワークを誇っていました。多忙な業務の合間に寸暇を見つけて、大好きなバスケットボールを続けてきた人たちで、男女混成、1970年前後以来のメンバーが、いまでも、年2回コートに集まって一汗流した後、快飲、快食、歓談します。

1980年代、滋賀県長浜市と山東町(当時)にあるダイアホイル社(現在は三菱化学ポリエステルフィルム社)の工場長をしていた頃、若い人材が集まりましたので、運動部を作ろうということになり、私が工場長だったことが理由のひとつになって、バスケットボール部が誕生しました。滋賀県実業団のイベントにも参加して活動していたようでしたが、これも思い出として楽しい出来事です。

ところで、私のバスケットボールの原点は、畑龍雄先生です。武蔵高校で習ったわけですが、私の場合、鹿子木健日子(ヒーコー、ベルリン五輪の日本のセンターで身長193センチ)が異母兄という背景がありまして、武蔵高校の中学に入りました。兄とは身長でも年齢でも、20の差があります。中学3年の時、最初の師匠は、畑先生の代稽古の瀬古孝男さんでした。日本鋼管の渉外担当になって日本のバスケットボールの国際化に活躍された武藤清一さんは3年上でした。あるとき全国大会の決勝で、墨田工業と札幌一高が対戦して、確か延長戦となり札幌が制勝しましたが、墨田の2年生だった小浜さんの素早く正確なシュートに魅了されました。高校に入って畑先生に習うようになった直後、日本バスケットボールの歴史で画期的なことがありました。ハワイオールスターの来日です。

当銘兄弟らが、コートも時間も身体も、フルに使って繰り広げるプレイに、全日本のファイブメン、関口、横山、八谷、池田、岩尾が対抗できずに、じりじりとリードされていくのを、私は見つめていました。

ハワイチームが帰国した後、私たちの夏休みの練習が始まりました。練習のメニューがガラッと変わり、ハワイチームの華麗なプレイを分析して再現するための練習が始まりました。ドリブル、片手のパスやシュート、ロングパス、フックシュート、ローリングオフエンスなど、ひとつずつ、身体の使い方(どの関節をどのくらい曲げてまで)の基礎から徹底して習いました。今から思うと、畑先生が僅か2~3週間の間に、ハワイチームの技術をあれほど明確に把握して我々に教えてくださったのは驚異的です。最近お茶の水の先輩から聞いた話によると、畑先生は、ハワイチームの宿舍まで出向いて、ドリブルの勘所や練習法などの情報収集に努められたのだそうです。

畑先生の観察と解析の素晴らしさについては、ハワイ以外にも例があります。一例を挙げれば、私たちがインターハイの決勝まで進んだ時の相手、北越商業に泉さん(明治大から日本鉱業)がいました。私より一年上ですから、仰ぎ見るような存在でした。身長は低いのですが跳躍力が素晴らしく、独特な身体の使い方シュートチャンスをつかまえます。畑先生は私に、その身体の使い方を手取り足取りして教えた後「泉のプレイのすごさはこ

れなんだ。お前も小さいからやっご覧」と言われました。私は泉さんのように素質がありませんでしたが、それでも、その身体の使い方は非常に有効でした。簡単に説明すると、ボールの位置を変えないで、重心の位置を上下、左右、前後にかえる動作と、逆に、重心の位置を変えないでボールの位置を変える動作を組み合わせて、一瞬のシュートチャンスをつかみます。私は、この身体の使い方について、今でも大学の後輩チームにワンポイントレッスンをします。畑先生はこの技術の名前をつけませんでした。名前がないと不便なので「ストレッチ&ベンド」と呼んでいます。腕を伸ばすと同時に膝を曲げる（逆も）意味です。

バスケットボールが好きですけれども素質もない私が、高校に入って畑先生から直接指導を受け週3日の2時間前後の練習で、2年生の夏にはサブでしたがインターハイの決勝戦に出場させて貰うまでに仕込まれたのですから、先生の教え方の有効性・効率性は驚異的です。3年生の時は、名手揃いだった1年上（野尻、大和、清水、新谷、森）の全員が卒業の後で、新人戦では、都大会一回戦敗退の屈辱を味わいましたが、夏のインターハイでは東京代表になり、山形県酒田の大会で準々決勝まで進みました。このときの1年生には、現実業団連盟の佐室君、その他、三輪君、川浪君、大澤君ら優秀なプレイヤーがいて、2年後には、インターハイで初優勝を果たしました。さらに、その後に、木村君、石川君、小川君が続ぎ、デミング賞の吉沢君、キリンの佐室（弟）君、印南（前出）君の1957年頃まで、武蔵高校の黄金時代といわれています。

また、幅広い活動でバスケットボールに貢献している澤田君や清水君もこの年代の仲間です。中学の頃、1年下に、東証の西室さんが居ました。西室さんはその後自身でプレイしませんでした。東芝の代表者として、全日本優勝の胴上げを2回も経験しています。野球やラグビーでも胴上げされたそうですが、バスケットボールの胴上げが一番心地よかったです。

私は、高校時代からバスケットボールの虜になってしまったので、勉強に割く時間がどうしても不足しがちでした。畑先生からは「時間の使い方」「集中」と教えられましたが、容易に出来ることではありません。そこで、大学受験に際して、重点科目への配点度合いの高い東工大に入りました。面接試験の体操の先生が、「お前がバスケットボールか、小さいな」と言われたのを覚えています。東工大には、畑先生の弟さんが教授・バスケットボール部長でいらっしゃいましたが、特別お世話になったのは、旧制水戸高校のエースとして旧制インターハイで大活躍した経験を持つ須藤先生、就職した後も先生が亡くなるまでずっとお世話になりました。いまでも奥様とお話することがあります。

1年生の時には、旧制東京高校でインターハイ優勝経験のある石坂さんが、当時東大在学中でしたが、教えに来てくれました。石坂さんはその後、三菱自動車の幹部になり中部地区のミニバスケットボールの振興に尽くされたそうです。石坂さんは講話がとても上手で、説得力がありました。その講話に登場するのが、豊多摩高校から教育大（筑波大）にいった松尾さんと浅野さん、松尾さんの妻さについては日本鋼管のスターです。畑先生からもたっぷり聞かされていましたが、浅野さんは同年で、三菱系だったので、親しくなりました。

一緒にプレイした仲間では、長野北高のエースだった横山さん、成城学園からキト一の鬼頭さん、同じく成城で三橋さんとコンビで都随一のフォワードと言われた井田君、観音寺一高から来たポイントガードの浅野さんなどです。私の一試合最高得点は、秋のリーグ戦で挙げた43点ですが、パスをフィードしてくれたのは浅野さんでした。

東工大バスケットボール部は、1946年戦後初めての関東大学リーグ戦には、富士通のコンピュータの開祖として有名な池田敏雄（全日本ベストテンのひとり）さんを擁して、一部リーグに参加したことがある以外、無名チームです。自慢話になりますが、その池田さんが須藤先生を尋ねた帰りに練習を見に来てくれて、全員に「バスケットボールは鹿子木君のようにノーモーションで、パットやるものだよ」とワンポイントレッスンされたことがあります。人には言えないけれど嬉しいことでした。

今の現役は、4部とか5部とかですが、部員は大勢いて、しかも熱心に練習しています。折角やるのだから、それなりに成果を出すようにと応援しています。こちらの仲間は、日本鋼管の黄金時代のメンバーだったこともある滝島さん、東大教授で、制御理論の原さんなどです。

学生達はバスケットボール大好きでよく練習もしていますが、なかなか、期待する結果が出ません。そろそろ結果が現れるかなと期待しているところです。

ヒーコーと畑先生の影響で、家族・親戚にバスケットボールプレイヤーが沢山いたことがあります。私の家内は1951年インターハイ優勝のお茶の水付属のメンバーでしたし、一時、東京成徳高校で数学を教える傍ら、創部直後のバスケットボールを指導していました。私たちが結婚して、九州に住んでいた頃、東京成徳はインターハイで常勝のチームになりましたので、熊本インターハイの時でしたか応援に駆けつけたことがあります。

娘も中学から高校にかけて熱中していました。熱心な先輩の指導を受けて、都大会でベスト16まで進出したのを誇りにしていました。娘はその後、米国に留学した際に友人とバスケットボールをして、余りにも格差があるので興味を失ったと言っていました。私も、もし若いときに留学していたら、今ほどバスケットボール大好きにならなかったのかもしれない。または、米国で、畑先生からの教えを活かして、コーチを目指したかもしれません。

最近実際にコートに足を運ぶのは、大学、高校、中学の試合が多いのです。大学の試合の応援で、一橋大、理科大、慶応医学部のコーチ陣と交流して、刺激を受けるのも楽しみのひとつです。一橋大の津田監督とは昔の思い出話が出来ます。慶応医学部の部長は、武蔵高校バスケットの後輩である池田先生ですし、コーチ陣はコーチ経験豊富な立花さん、慶応大から住金のエースだった久武さんとヒーコーの息子の鹿子木雅君で、最近の技術についての意見交換相手です。今年は、慶応大のコーチをしていたことのある三輪君（前出）にお願いして、佐々木監督の指導される慶応大学の練習を見学しました。大変参考になり、且つ楽しいひとときでありました。高校、中学の試合でも、コーチの先生や若い友人と意見交換するのは楽しみです。最近の中学生はシュート能力が高いので、100点を超えるゲームがしばしばです。

世界選手権やNBAは、専らテレビやDVD観戦です。DVD観戦ですと、リプレイで繰り返し観戦できるから便利です。近年進歩したIT技術の恩恵はバスケットの技術開発にもあるはずで、これを利用しない手はないと思っています。そう言えば、協会が作ったエンデバーのCD-ROMも拝見しました。一步前進ですが、更なる改良余地が大きいというのが正直なコメントです。

後輩の試合など見ていると、いろいろ考えることもあるので、「もっと！バスケット」というブログを作りました。最近、一通り書き尽くしたのであまり更新していませんが、大勢の方が見てくださいました。今年は、大学の後輩のために、「バスケットボール及び練習大綱」と言う文書を作りました。すべて、畑先生から教わったことが下敷きとなってい

ますが、畑語録そのままでありません。

畑語録といえば、たくさんあるわけですが、傑作は「パスキャッチの手の使い方」でしょう。一昨年だったか、ある空港で住金の岡山さんに会いました。大きいからすぐ分かります。自己紹介して話していたら「僕の師匠は島田さんですが、畑先生に習ったことがあります」とのことでした。パスキャッチを身振りを交えて楽しそうに話されていました。

最近、日本のバスケットボールは振るいません。身体能力や練習環境に大きな差があるので仕方ない面もありますが、どうも、指導体制がその基本的差異を明らかにしていない、取り組もうとしていないようで物足りなさを感じています。私は「一瞬のシュートチャンス」と書きましたが、一瞬とは、何秒（千分の一秒単位）なのでしょう？

同じ選手でも、跳び上がる動作、跳ばないで上に伸びる動作、下に下がる動作、左右にボールを動かす動作、それぞれ、速さが違います。これに関連した畑語録としては「下に跳べ」があります。

パスを受けてからシュートするまでの動きにしても、無駄な動きが入ればそれだけ時間がかかります。その一瞬の差でカットされることなくシュートが打てるかどうか、決まります。また選手は、何種類（何十種類）の技術を駆使できるのでしょうか、そしてその組合せは？そのプレイの身体の使い方はどうあるべきか？日本の物づくり技術用語で言えば、動作の無駄、時間の無駄を徹底的に排除しなければなりません。

もう一つの問題は練習施設です。シュートの練習をするリングがないのです。アメリカのように各家や空き地のガレージ・バスケットボールがありません。昔は、チーム練習の前後に個人練習したものですが、最近はコートの使用契約時間があるからそれも出来ません。

私は後輩のコーチに「シュートの練習時間の管理は、コーチの使命」といいます。コーチは、とにかくチーム練習に時間を使いたがって、結果として個人練習の時間がなくなるからです。ほんとのことをいえば、バスケットボールを志す者はボールとリング一個ずつ、座右に用意するべきと言いたいぐらいです。

ものごとなんでも問題点を明らかにしなければ、問題解決出来ません。経営管理の原理的問題です。繰り返しますが、日本は物づくりにおいては、トヨタ生産方式にある「ムダ取り」に優れた技術を持っています。何故、バスケットボールに適用して、例えば身体の使い方の無駄を取り、鋭い身体の使い方を身につける努力をしないのでしょうか。勿論時間はかかります。

しかし、そういうことを地道に積み上げて素質に恵まれたプレイヤーに結実しない限り、国際的に活動していくのは無理だと思います。

畑先生の語録はいくつかありますが、私が特別に意識することなく座右の銘にしているのは、「へばったら頑張れ」の他に、「身体の使い方」「時間の使い方」です。それを出来るだけ定量化して考えることを心がけています。

畑先生とヒーローのお陰で、私自身はバスケットボール大好きなだけでバスケットボール界に余り貢献していないのですが、多くのお知り合いが出来ました。川本さんが、その最たる方でしたが、私より若いのに先に逝ってしまいました。川本さんから頂いた宿題のつもりで書き始めたら、長文になってしまいました。多分振興会に投稿するのは、この一回だけでしょうからお許し頂けることを期待しております。川本さんのご冥福をお祈りすると共に、生きていく限り皆様宜しく願いいたします。

[中小企業診断士・国際協力専門家]

事務所移転完了

特別寄付にご賛同有難うございました

平成17年以降、愛知会長のご好意によって事務所を運用してきましたが、このたび都合により新たな事務所を開設することになりました。新しい事務所に関しましては有料借用となるため、その資金として特別な寄付を会員の皆さんにお願いしましたところ、多数の会員の皆さんにご賛同いただき10月30日現在100名にのぼる方々から、約120万円の寄付が寄せられました。大変有難く厚くお礼申し上げます。

ここに特別寄付の中間報告をさせていただくとともに、事務所の移転が完了しましたことをご報告いたします。

新しい事務所は下記の通り神田神保町に、別のNPO法人である“ピース・キッズ・サッカー”という団体と同居の形で運用が始まっております。ピース・キッズ・サッカー殿が借用していた事務所に、振興会が同居させていただくことで貸主との交渉がまとまり、10月11日に移転を完了しました。

このピース・キッズ・サッカーというNPO法人は、イスラエル、日本、パレスチナなどの子供たちが、サッカーなどのスポーツや、さまざまな国際理解プログラム、共同作業などを通して、文化の違いを越えて相互に理解し尊重し合える力を育む機会を提供している団体です。初めて出会う子供たちが、言葉を使わずにうちとけ、コミュニケーションがとれるようサッカーを取り入れ、お互いの暮らしや価値観、考え方を知り、理解・尊重するためのプログラムや協力することを学ぶ共同作業を行なっています。

事務所の借用料は10万円/月で、当面、来年の4月までは折半して5万円ずつ負担することになっており、駅からも近く非常にいい環境の場所といえます。振興会は原則として毎週火曜日と木曜日が全日使用可能となっておりますが、昼間は比較的空いていますので、それ以外にも使用可能です。

神保町といえば、その昔バスケットボールのメッカであった国民体育館が近くにあった場所で、懐かしい町でもあります。現在、当時の国民体育館はありませんが、神田というところはその当時を思い出させるにふさわしい町並みが残されています。会員の皆様お近くへお越しの節は是非お立ち寄りくださいますようご案内申し上げます。

[新事務所案内]

都営地下鉄・新宿線、三田線、東京メトロ・半蔵門線にて神保町下車

A5出口を地上に上がり、靖国通りを左へ1分

ビルの1階はコンビニエンスストア a m p m

所在地 〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-8 第二野口ビル3階B室

TEL/FAX 03-3219-9311

Eメールアドレス Sinkokai@triton.ocn.ne.jp

(従来どおりです)

広さ 32平方メートル(約10坪)

20名程度のテーブル会議可能

[特別寄付者ご芳名] アイウ順・敬称略・10月30日現在

青木 勇作	浅野 義尋	足立 舒夫	阿部 進	荒井 強兵	飯田 昌夫
石川 俊紀	稲垣 安二	猪野 光威	井上 康平	上野 晴弘	梅戸 仁
大塚 周一	小笠原義昭	小澤 正博	恩田 俊昭	加藤 雅春	鹿子木基員
壁谷 道明	蒲田 尚史	上谷 富彦	岸本 三男	草階 勇人	葛尾 和弘
黒川 敏雄	小池 春雄	小泉 賢武	輿水 朝治	小堀奈緒美	紺野 仁
坂上 季男	坂根 茂	坂本 博	佐古 宏美	笹岡 太一	佐藤 綾女
佐藤 精孝	佐藤 静子	実吉 純彰	佐室 有志	清水 碩二	清水 高弘
清水 英邦	正田 宏二	白谷 慶子	杉山 絹枝	鈴木 文江	住田 正二
関口 荘次	関根 正司	滝 富夫	都崎 修男	辻 兵吉	手嶋 昇
手塚 純	寺田 生男	徳永 寿美	戸塚 宣子	富田 洽一	仲内 豊造
中島 章夫	永田ふみ子	並木 浩	成合 昇	西室 泰三	羽佐田恭正
橋本 章	樋下田雄三	日比野 明	廣瀬 直子	深尾 秀次	福田 利廣
房野 久吾	富士 秀雄	藤野 英雄	古谷 正子	細谷 和男	堀 堅次
松岡 英子	丸山 正敬	三浦 正純	宮 和夫	宮川 敏夫	宮崎 和子
宮田 奎治	宗 丞	村田 道子	森永 伸和	諸山 文彦	矢野 哲朗
山口 憲一	山崎 博明	山本 哲哉	山本 嘉宏	吉岡 尚美	吉田 公子
従野 明宏	和賀 健二	渡辺あや子	渡辺 誠	渡部 嘉子	渡利登美子

以上の方々にご協力いただいておりますが、来年度以降は会員増強による財政確保の見通しが立っていること、事務所借用料が安価な場所を確保できたことにより、特別寄付などの要請は行なわない予定であることをご報告いたします。

以上



事務所入り口



事務所内部

プラザ こぼればなし

- ◇ 日本バスケットボール協会の紛争がまだ継続中で、新聞によれば、9月12日の理事会でも評議員会の次回開催が決まらないという。理由は「開催見通しが立たない」とのこと。開催見通しが立つには、評議員の所定数の出席が必要である。現理事会に問題があるとしても、評議員会を開催不能にする評議員の態度にも問題があり、喧嘩両成敗は誰もが認めることではなかろうか。いずれにしても、評議員会の開催で協会の活動を早期に正常化することが望まれる。会員の皆様は如何お考えでしょうか。
- ◇ 日本バスケットボール協会の紛争收拾は振興会の役割の一つであると思われると共に、振興会の存在を示す良い機会であろう。個人的にも、例えば対立する両者からそれぞれの思いを聞き出して、收拾策を検討しては如何か。どなたから見ても利害関係のない会員の方の自薦、他薦を頂き、早期に実現したいものである。
- ◇ 日刊スポーツのウェブサイトにおける記事によれば、日本バスケットボール協会（JBA）の異常事態継続に対して日本オリンピック委員会（JOC）がJBAの運営正常化を促す方策を検討する加盟団体審査委員会を10月10日に開いて、JBAの早期運営正常化へ向けて助言などをする方針を決め、当面は次回の評議員会まで推移を見守ることとしたとのことである。また、市原則之委員長は「JOCとしては憂慮している。28日に評議員会が開かれると聞いているが、少しでも早く選手が心置きなく戦えるようにしたい」と述べたという。この方面からの援助も大いに期待したい。そして、今回のプラザ発行までに事態の進展があることを望んで止まない。
- ◇ 北京オリンピックの予選を兼ねたアジア男子選手権大会が徳島市で開催された。久々にオリンピック出場が期待された日本代表チームであったが、アジアの壁は年毎に高く厳しくなっているようだ。
試合中、身体的に劣る日本としてイージーなシュートを落とすことは許されない。ましてやフリースローは確実に決めておかなければ勝負にならないだろう。
- ◇ バスケットのテレビ放映を見ていてユニフォームが気になった。選手が、カットスリーブというような肩の上に短い袖があるようなシャツを着ていたが、試合中何人かの選手が、肩の辺りが邪魔そうなそぶりをしていた。選手がよければいいのだが、従来のランニングタイプの方が動きやすいのであれば、関係者は一考されたい。

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 | 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川15丁目5-7



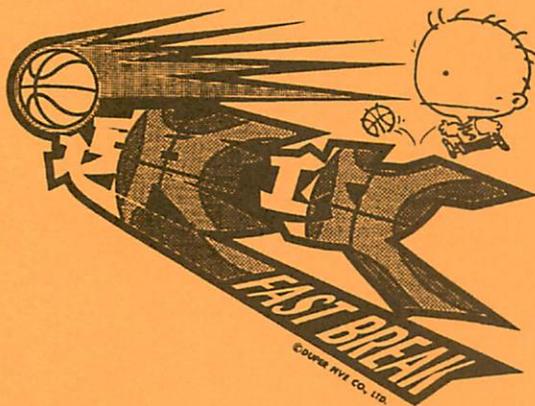
TEAM



WORK

ONE for ALL ALL for ONE

©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.

DEFENSE FOOTWORK

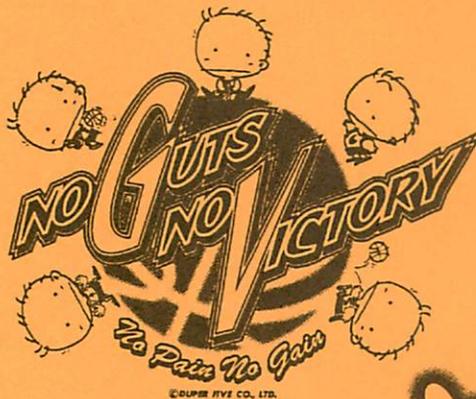


©DUPER FIVE CO., LTD.

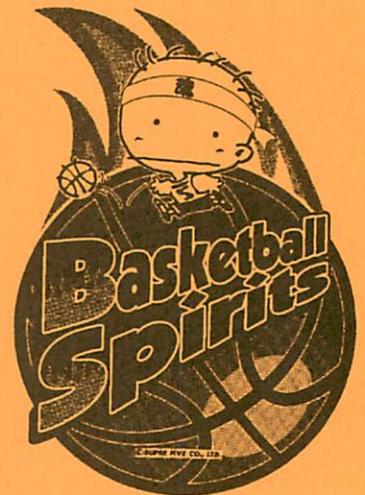


DUPER.

表現の自由人。



©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.

文武両道



DUPER.®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: info@duper.co.jp